

函館 ハリストス正教会

2013年2・3月 第28号



発行者：函館ハリストス正教会 長司祭ニコライ・ドミトリエフ
〒040-0054 函館市元町3-13

TEL(0138)23-7387/FAX (0138)23-7939

URL <http://orthodox-hakodate.jp>

編集者：会報編集委員会 郵便振替 02660-5-1721

聖師父の教えより(第15回)

—「信経」について(4)—

【天地創造の七日間】

神による天地創造は、旧約聖書の創世記第一章から第三章に記されています。

ここで一つ触れておかなければならないことは、「聖書」という書物が編まれた目的とこの書物への接し方です。

私たちハリスチアニンにとって聖書の中で一番大切な部分は新約聖書、特にその最初の部分である「福音経」(マテイエ伝、マルコ伝、ルカ伝、ヨハネ伝)です。教会の至聖所の宝座の上に置かれているのが「福音経」であることから、この書物が私たちの信仰の中核であることが判ります。

それでは私たちにとって旧約聖書とは何でしょうか。一言でいえば、旧約聖書は、新約聖書を正しく理解するための土台であると言えます。(前号の教会報1ページのイラ

ストが表しているとおります)。もし旧約聖書が無かったら、私たちは主ハリストスが救世主であることも、「救世主」の意味も、「贖罪」の意味もわからなかったでしょう。さらには

新約聖書が「聖書」であることさえ理解できなかったでしょう。その意味で旧約聖書は、私たちの信仰の「土台」です。旧約聖書と新約聖書の両書を一貫して貫いているテーマは「神による人類の救贖」です。そして、この書物を正しく読み取るために求められるものは「信仰」です。何故ならば、「どうしたら人間は救われるのか」、「なぜ人間は救われる必要があるのか」ということを



▲光の創造
(グスタフ・ドレー画)

教えているのが「聖書」だからです。

従って、聖書の諸書札の中で比較的歴史的記述の要素が強い創世記にしても、歴史学や生物学の教科書ではないのです。

正教会が啓蒙者に「聖書の1ページ目は福音書の1ページ目です」と教えるのには理由があります。もちろん先にも書いたように聖書の中で一番大切な書札が福音書だからということも理由の一つですが、普通の文学書のように“第1巻の第1頁が最初のページ”という発想で旧約聖書の第1頁目から聖書を読み始めたとしたら、遠くない将来挫折するのは目に見えています。この読み方で福音書まで辿り着くためには、相当な忍耐が必要です。特に旧約聖書は原語の知識が無かったり、手ほどきしてくれる神父さんがいなかったりすると「救い」どころか「誘い」になる場合もあります。

創世記も例外ではありません。創世記に記されている天地創造の要点は、神が何も無いところからご自分の意思によって全てを創られたという点です。また、見えるものは見えないものから創られ、段階を踏んで育まれ、成長していくことを前提としていたという点です。

天地創造の「7日間」と言われますが、この「7日間」という解釈さえ、注釈を必要とします。「7日間」と聞くと、24時間の7倍、つまり一週間だと思いが普通です。しかし旧約聖書が書かれた原語では、この「日」は一定の時間の流れを表す単位で、その「一定の時間」とは24時間よりもずっと長いのです。どのくらい長いのかと言うと、神が天地創造を始められたのを1日目とすると、現在はまだ7日目が続いているというのが教会の解釈です。この世の終わりである最後の審判は8日目になり、完全な神の国が現れると教会は教え

ています。正教会では「8」は「完全」を表します。

以上のようなことを踏まえたうえで、旧約聖書に記されている「7日間」に何が起こったのか、記されている通りに順番に整理しておきましょう。

- 第一日 —— 光の創造。
- 第二日 —— 蒼穹の創造。
- 第三日 —— 陸地と海と草木の創造。
- 第四日 —— 太陽と月と星の創造。
- 第五日 —— 魚と鳥の創造。

第六日 —— 獣と家畜と地に這うものと人の創造。

第七日 —— 神はすべての作業を終えて休まれた。

創世記第二章には、神は土の塵で人を造ったと書かれています。ここで思い出されるのが埋葬式の祈祷文です。

「昔我を無きより造りて、爾が神たる像にて飾り、戒めを犯すに因りて、復我を我が出でし地に帰しし主や、我を神の肖に



▲「天地創造」のモザイク (12世紀)

適える位に升せ、古の美しきを以て我を改め給え。」

この祈祷文は天地創造のプロセスにおける人間創造の原点を的確に表しています。

聖金ロイオアンは、この「土の塵」について次のように言っています。「預言者モイセイ(モーセ)は、既に創世記の第一章において、人の創造は六日目であったと書いたのに、第二章で再び人の創造についてこのような補足をしているのは、常に人がこのこと(人が土の塵から造られたこと)を記憶し、自分があたかも何者かであるかのような幻想を抱かないように戒めているのである」。

さらに神は土で造った人の鼻に命の息を吹き込まれ、それによって人は生きた者となりました。これが神の「像」と神の「肖」に従って創られた人の最初です。

ところで創世記に記述されている神の「像」と「肖」という言葉ですが、どのような言語に訳すにしても翻訳が難しそうな二語です。そして言葉だけ翻訳してみても、意味が通じづらい言葉でもあります。

ニッサの聖グリゴリイはこの箇所について次のように言っています。

「最初の像というものは、我々人間が創造された時点で有していたものであり、後の肖というものは神の完全さにより近づくために、個人の努力によって到達するものである。しかし、この部分が全く欠落する場合もあり得る」。

このニッサの聖グリゴリイの解釈を念頭に置いて、もう一度先ほどの埋葬式の祈祷文(前ページ掲載)に戻ると、なるほど「像」と「肖」の言葉の使い分けの意味がはっきりします。「像」は最初から神が人に与えてくれたもの、「肖」は自分が「神の肖に適える位」に到達できたかどうかを試されるものであるということが改めて認識できます。

このように旧約聖書は一語一句が一見難しく見えますが、聖師父の教えを道しるべとして辿っていくと、神が創造された世界をより深く感ずることができます。

その後、神はエデンに一つの園を設け、造った人間を置きました。創世記第二章にはその場所が記されています。エデンから流れ出した川は四つの支流を持っており、

その名はフィソン、ゲオン、ヒデケル、エフラト(ユーフラテス)と言いました。

この辺りの記述から、この楽園はメソポタミヤ平原の南、ペルシャ湾とバビロンの間に位置していたと考えられています。しかしアダムとエヴァの楽園追放の際、再び人間が命の木に近づかないように、この楽園に通ずる道にはヘルヴィムと炎の剣が置かれ、人間は二度とこの道を通ることはできなくなりました。この地を聖ニコライは「地堂」(地上の楽園)と訳しています。これに対して「天堂」(天の楽園)は、最後の審判の後に永遠の命を得る者が入る神の国です。

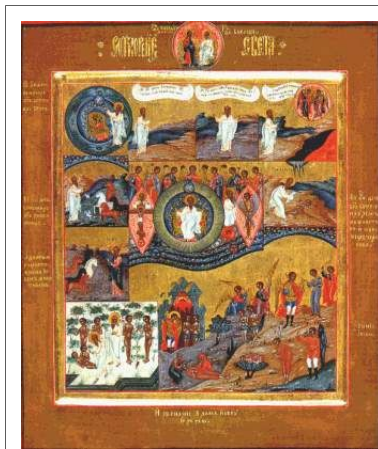
創世記の正教会訳(聖ニコ
な かい つ ぐ ま る
ライ・中井木菟麻呂訳)は、「
さん か さい けい
三歌斎経」(または「大斎第一
週奉事式略」)の中に収録されています。この箇所は大斎第一週の間、晩課で誦経されます。正教会文語訳ならではの格調高い素晴らしい翻訳

で、「正教の香り」がします。今年3月18日(月)から大斎第一週が始まります。是非、参拝して「正教の香り」を味わって下さい。

「元始ニ神天地ヲ造レリ。地ハ形ナク虚シクシテ、暗ハ淵ノ面ニ在リ、神ノ神° 水ノ面ニ覆育セリ。神曰ヘリ、光アルベシ。即光成レリ。…」

さて、この続きは、大斎第一週に聖堂にて。

(長司祭ニコライ・ドミートリエフ)



▲「天地創造」のアイコン
19世紀(ロシア)

降 誕 祭 関 連

ものいみ 《降誕祭の齋》

「降誕祭の齋」が始まると、降誕祭はもう目前です。「降誕祭の齋」は毎年11月28日から始まって、降誕祭聖体礼儀まで続きます。正教会では、特に重要な祭日の前に「齋期」が設けられています(一年間の教会暦の中で、齋期は四回あります)。齋期は食事の節制を行い、痛悔(悔い改め)と祈祷にいつもより多くの気持ちを向ける期間です。これから迎える祭日の意味について理解を深め、祭日を祝うために相応しい心の状態を準備する期間です。教会の主日昼食会の献立においても、婦人会の協力を得て、肉類・乳製品・卵を絶ちます。このような肉体の節制を行うことによって、人間はより自然に、より無理なく、精神的な節制(怒り・妬み・傲慢など心を汚す思いを遠ざけ、自分の心の状態を正直に見つめること)を行うことができます。各信徒が自分のおかれた環境において、できる範囲で守るべく努力しています。

《降誕祭の飾付け》

函館正教会では、毎年12月の第一主日に降誕祭を迎えるための飾付けを行います。今年は2日(日)にクリスマス・リース作りとクリスマス・ツリーの飾付けを行いました。3束の杉の生枝から、大きいリースが4個(正門、西門、信徒会館玄関、司祭館玄関)と小さいリースが1個(信徒会館内ロビー)が出来ました。右の写真はリース作りの“熟練者”と“応援団”の皆さん。



▲ もうすぐ降誕祭ですね！

《市民クリスマス／降誕祭前晩祷》

12月24日(月)、午後6時より恒例の「市民クリスマス」が行われました。「市民クリスマス」では、普段聖堂の中に入るきっかけがない市民に呼びかけ、正教会の祈りの雰囲気に触れて頂いています。近年は平均して60名程の参拝者があります。聖歌隊では、市内の合唱団からの応援を得て練習を重ね、主のご降誕を迎える喜びにあふれた聖歌が聖堂に響きました。眼下には函館の夜景が、頭上には美しい星空が広がった快晴の夜でした。



▲ 「ハリストス生まる、崇め讃めよ」

▶ 北海道新聞朝刊より
(十二月二十五日付)



降誕祭関連

《降誕祭聖体礼儀》

12月25日(火)、午前10時より降誕祭聖体礼儀が行われました。

降誕祭の日、神品の祭服は白色です。

正教会では、祭日によって祭服の色が定められています。例えば私たちがよく目にする色として、復活祭または致命者の記憶日の赤色、生神女の祭日の水色、神・聖神^oの祭日または克肖者の記憶日の緑色、主日の金色、大斎の紫色、受難週間の黒色などがあります。

白色の祭服は、降誕祭の他に神現祭、埋葬式、パニヒダなどにも用いられます。降誕祭の日の「白」は、創造主である神が被造物である人間の姿をとってこの世に嬰兒としてお生まれになった「従順謙遜」を表しています。なぜ神は人間として生まれる必要があったのでしょうか。楽園において罪をおかした結果、楽園を失った人間の罪を贖い、再び神の国に戻ることができるようにするために、それは必要であったと聖書に書かれています。つまり、人間の贖罪のために十字架に掛り、苦しみを受け、葬られ、三日目に復活することを前提としての降誕でした。

一方、神が人間としてこの世に生まれるためには女性の胎を通る必要がありました。それに相応しい女性だった方が生神女マリヤでした。もちろん処女であるマリヤにとって「あなたは男の子を生むでしょう」という神使ガヴリイルのお告げはあまりにも唐突でとんでもないものであったことは想像に難くありません。しかしマリヤは「私は主・神の婢です。神の御心どおりにこの身に起こりますように」との従順な言葉を以て「神の母」となりました。

教会の降誕祭関連行事の中で一番大切な行事が「降誕祭聖体礼儀」ですが、平日の日中のためか、信徒の参拝が少なかったことが残念でした。

《降誕祭祝賀会》

12月23日(日)、主日聖体礼儀の後、信徒会館にて降誕祭祝賀会が行われました。この日は天候にも恵まれ、ソフィヤ齋藤サツ姉が娘のマリヤ大谷姉に付き添われて聖体礼儀に参拝し、領聖しました。ソフィヤ姉は現在96歳になり、「愛泉寮」に住んでいます。他にも高齢のため、最近少し足が遠のいていた方々が参拝して元気な姿を見せてくれました。

祝賀会では婦人会の協力に依り、近年初めて試みた手作り料理の食卓が大変好評でした。差入れをしてくれた皆さんもありがとうございました。

余興ではアキラ大村義美兄のユーモアたっぷりのソロ、聖歌隊女声合唱、マジック(松田朝康氏)、クイズ、プレゼント交換などがアンヴロシイ花野兄の巧みな司会のもとに繰りひろげられ、40名余の参加者が楽しいひと時を過ごしました。

写真

▲ ソフィヤ齋藤サツ姉(中央)



▲ 心のこもったお祝いの食卓を囲んで

年末年始関連

《聖堂拝観奉仕の会》

12月25日(火)に2012年最後の聖堂拝観を終えた翌26日(水)、拝観奉仕者たちが信徒会館に集まり、この一年間を振り返って反省会を行いました。拝観奉仕者は、観光客にとっては聖堂の「顔」です。正教会の教えや函館正教会の歴史などについて説明できる知識を持ち、様々な来堂者のニーズに適切に対応することが求められます。



▲ 一年間お疲れ様でした！

今回は、最近増えてきたアジア地域の観光客のための標識、観光客のための記帳用ノートの設置、雨の日の傘の対応、などが検討事項として挙がりました。これに対し、管轄司祭からは「教会境内での標識は祈りの雰囲気は損なわないように。また文言も〔厳禁〕、〔禁止〕、〔！〕などの強い表現はできるだけ避けるように」とのコメントがありました。

また、年末最後のご奉仕として、拝観奉仕者たちで聖堂の燭台のお磨きをしました。

特別な行事が多かった2012年も大過なく聖堂拝観を終えることができたことを、ひとえに主・神のご恩寵と感謝し、2013年への祝福を祈願して閉会しました。

《年越し・新年感謝祈禱／新年会》



▲ 2013年元旦

函館正教会では、大晦日の夜の祈禱を「年越し感謝祈禱」、元旦の朝の祈禱を「新年感謝祈禱」としています。大晦日零時には、キリル高井兄が打つ高らかな鐘の音が近隣に2013年の到来を告げました。

今冬は、降誕祭から新年にかけて晴れの日が続き、元旦には左の写



▲ 2013年元旦の参拝者

真のように青空も垣間見えました。新年感謝祈禱において管轄司祭は「今、私たちの前に真っ白な紙が広げられました。これから私たちはこの

紙の上にとどのような文字でどのような文章を綴っていくのでしょうか。今年の最後にできあがった作品を見て、主・神に感謝できるような人生を送りましょう」と話しました。

1月6日(日)は、今年最初の聖体礼儀及び1月の聖名祭モレーベンを行った後、信徒会館において持ち寄り新年会がありました。一人ひとりが語った抱負の中では「私たちを守ってくれる神さまへの感謝の気持ちを忘れずに日々を送りたい」との思いが皆に共通して感じられました。教会と隣人を大切にし、お互いに励まし合いながらまたこの一年を共に歩んでいきましょう。



▲ 新年会(2013年1月6日)

い」との思いが皆に共通して感じられました。教会と隣人を大切にし、お互いに励まし合いながらまたこの一年を共に歩んでいきましょう。

歴史のひとコマ

～ ガヴリイル・スレーチェンスキ神父のこと ～

「ガヴリイル・スレーチェンスキ神父」と聞いて、直ぐに何か思い当たる人は殆どいないかもしれません。彼の名前は「宣教師ニコライの全日記」の中に何回か登場します。彼は一度も日本に来たことはありませんでしたが、日本の正教会はその黎明期において、彼に大変お世話になりました。

1869年、日本におけるロシア正教会宣教団設立の許可を得るために聖ニコライがロシアへ一時帰国した際、聖ニコライはスレーチェンスキ神父(当時、輔祭)を紹介されます。彼はこの時からロシアにおける聖ニコライの片腕となりました。設立されたばかりの日本宣教団で孤軍奮闘する聖ニコライのために、モスクワの府主教インノケンティ座下の祝福を得て、ロシアでの募金活動の窓口となってくれたのです。

日本での宣教は多くの実りを結びつつありましたが、伝教者を育成し、印刷物を発行し、洗礼を受け、教会を建設し、牧会を行うためにはロシアからの資金的援助が不可欠でした。時あたかも諸外国のキリスト教諸派が宣教師を日本に送り、莫大な資金を投じて宣教を繰り広げ始めた頃です。

聖ニコライはその人間性、聖神^o性、神学の知識、語学・翻訳の才能などの諸方面において優れた宣教師であったことは多くの人に認識され、多くの人に語られています。しかしこの時代背景において優れた宣教師であるということは、資金を調達する才能または努力を必須条件としていたというのが、容赦ない現実でした。

聖ニコライはスレーチェンスキ神父宛に次のように手紙を書いています。

「貴方から随分前に手紙を頂いたままになっています。返事を書かずにおり、すみません。もっとも返事といっても決まっております。私がロシアの知人たちに書けることと云ったら、援助を懇願することしかないのですから。…(中略)…こうして手紙を書いている間にも宣教のために使うべき時間が流れていきます。…(中略)…私たちを励まし、喜ばせて下さい。もし直ぐに援助を受け取ることができないのであれば、せめて希望だけでも与えて下さい」。

1879年、聖ニコライは主教叙聖のために二度目の帰国をしますが、その時に集まった20,000ルーブル以上の献金についても、多くの篤信者との仲介役となったのがスレーチェンスキ神父でした。

スレーチェンスキ神父は、1873年から永眠する1890年まで、モスクワの昇天聖堂(“Малое Вознесение”)の主管でした。この聖堂はモスクワ市の中心、クレムリンから徒歩5分ほどのところに在り、今日に至るまでモスクワ市民の信仰を養っています。

聖体礼儀に参拝する折、永眠者の聖パン記憶に「長司祭ガヴリイル」と書かれる方があれば、彼の善行に対する良い報恩となることでしょう。



▲ ガヴリイル・スレーチェンスキ神父(†1890)



▲ 現在の昇天聖堂(モスクワ市ボリシャヤ・ニキーツカヤ通り)

婦人会より

図版

〔大齋期の食事及びお茶菓子について〕

・3月11日(月)から肉類を断ちます。

・3月18日(月)から卵と乳製品を断ちます。

教会での食事については、大齋を厳守します。食事及びお茶菓子について配慮をお願い致します。各家庭においても事情の許す範囲で大齋の食事を心がけましょう。

2月・3月の聖名祭

(聖名祭が2月の方は2月3日、3月の方は3月3日に行います)
聖体礼儀に引き続き行いますので、該当する方は是非ご参拝下さい。

図版

消 息

〔パニヒダ〕

写真

写真

写真

▲ タリヤ吉川静枝姉一年祭
(2012年11月27日〔火〕)

▲ マリヤ月山あつ子姉一年祭
(2012年12月1日〔土〕)

▲ アンナ西村ゆき姉一年祭
(2012年12月13日〔木〕)



上磯ハリストス正教会だより

《降誕祭前の大掃除》



▲ 老いも若きも燭台磨き

12月9日(日)、主日昼食会の後、皆で聖堂の大掃除とクリスマス・ツリーなどの降誕祭の飾付けを行いました。燭台を磨き、絨毯の上に落ちたロウをアイロンで取り、最後に念入りに掃除機をかけると、聖堂内の空気が澄み透るかのように感じられました。今年は子供たちに任せた降誕祭の飾付け(室内とツリー)もセンス抜群！

降誕祭が楽しみです。

「もういくつ寝ると降誕祭？」

「モミの木の枝ってこんな感じ？」▶

写真

写真

◀ 大掃除の合間に小休止

《降誕祭＊祝賀会＊信徒総会》

1月13日(日)、待ちに待った降誕祭の日です。ロシアでも降誕祭は1月にお祝いします(7日)。ニコライ神父は「お店の“クリスマス商戦”や娯楽的な“クリスマス・パーティー”の喧騒の時期を離れ、1月は新年を迎えて、信徒として新鮮な気持ちで心静かに主のご降誕を祝うことができますね」と話していました。

降誕祭聖体礼儀では降誕祭のトロパリ、コンダク、カノンが歌われました。一年のこの時期だけ聞くことができる聖歌です。

今年の降誕祭祝賀会参加者は45名。教会学校の子供たちが大活躍しました。教会学校教師のマルファ佐藤姉に依ると、「練習に練習を重ねた」とのこと。それもそのはず。合奏、斉唱、二重唱、ダンスなど今まで上磯正教会では聴いたことも見たこともないような演目が目白押し。大人たちは充分に楽しませてもらうと同時に、子供たちの成長ぶりに驚きを隠せませんでした。「今回は小学6年生の子供たちにリーダー的な役割を分担し、自主的に練習してもらった」とのことですが、教会学校の先生の懇切

写真

▲ 教会学校の全員合唱は圧巻！

写真

▲ これぞアニメーション・ダンス！

丁寧な指導があったことが感じられました。
今回の演目をここに記録しておきます。

- 合唱・合奏**
1. 冬さんさよなら(鍵盤ハーモニカ・リコーダー演奏)
 2. クリスマスメドレー(「ジングルベル」・「あわてんぼうのサンタクロース」/合唱)
 3. ありがとう(合唱)
 4. 川の流れのように(リコーダー演奏)
*会場の大人たち歌ってもらいました
 5. 君をのせて(合唱・二重唱)
- アンコール:翼をください(合唱・二重唱)
- ダンス** アニメーションダンス

中学生(ミハイル佐藤兄と同級生たち)が披露したアニメーションダンス(このようなジャンルがあるのですね!)は、手足の動きが面白くて目が離せませんでした。振付は彼らのオリジナルとのこと。三人のそれぞれの動きの連携がとても巧みにできていました。

当たり前のことですが、子供たちはいつまでも今日の「子供」でいてはくれません。中学校を卒業し、高校に進学し、やがて教会学校を巣だって行きます。その日がそう遠くはないことに気付かされた今年の発表会でした。

「祝賀会」とは言え教会ならではの“お勉強”ができるのは、恒例イオフ馬場神父様の教会クイズです。当たっても当たらなくても、一問ずつ丁寧な説明と景品(!)が付きます。問題は全て降誕祭の基本を押さえたものです。今年は沢山の問題が出ましたが、毎年の勉強の甲斐あってか、皆の正解率も昨年よりは少しアップしたような…。



▲「さあ、正解はどれでしょう」

降誕祭祝賀会終了後、さらに信徒総会が行われました。農閑期なのでどうしても1月、2月に教会活動が集中します。例年どおりイリヤ坂下執事長の適切な司会に従って、予定されていた全ての議事日程が滞りなく審議・承認されました。残った時間で参加者からは今後への希望や抱負が出され、また十分に意見交換も行うことができました。

最後に「降誕祭後の廻家祈祷」の日程が組まれ、この日程に従ってニコライ神父が1月15日(火)～17日(木)まで、上磯正教会信徒の廻家祈祷を行いました。



《婦人会総会開催のお知らせ》

期日:2月10日(日)聖体礼儀後

会場:「しんわの湯」(バスで移動します)



2月の奉事・行事予定

2/2(土)	函館	17:00	主日徹夜祷 福音経:マルコ70端16;1~8
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
3(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	五旬祭後第35主日聖体礼儀 第2調
			使徒経:テモフェイ前280端1;15~17/福音経:ルカ93端18;35~43
			※聖体礼儀の後、2月の聖名祭モレーベンを行います
	13:00	信徒学びの会/婦人会	
9日(土)、10日(日) ニコライ神父、上磯正教会出張			
9(土)	上磯	19:00	主日晚課式
10(日)	上磯	10:00	主日聖体礼儀
			婦人会総会
	函館	10:00	五旬祭後第36主日 代式祈祷 第3調
			使徒経:コリフ後182端6;16~7;1/福音経:マツフェイ62端15;21~28
16(土)	函館	17:00	主日徹夜祷 福音経:ルカ112端24;1~12
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
17(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	五旬祭後第37主日/主の迎接祭/亜使徒日本の大主教聖ニコライ祭 聖体礼儀 第4調
			使徒経:テモフェイ前285端4;9~15/福音経:ルカ94端19;1~10
	13:00	執事会/聖歌練習	
23(土)	函館	17:00	主日徹夜祷 福音経:ルカ113端24;12~35 (「三歌斎経」の始め)
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
24(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	税吏とファリセイの主日聖体礼儀 第5調
使徒経:テモフェイ後296端3;10~15/福音経:ルカ89端18;10~14			

イースターエッグ講習会のお知らせ

日時:3月30日(土)・31日(日) 午後1時~4時

場所:信徒会館

参加費:300円



▲ 2012年11月の作品

信徒にとっては、復活祭前のタイムリーな講習会です。今年の復活祭のために一つ作ってみてはいかがでしょうか。一日参加でも仕上げるすることができます。

写真

▲ 2012年11月の受講者

3月の奉事・行事予定

3/2(土)	函館	17:00	主日徹夜祷 福音経:ルカ114端24;36~53
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
3(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	蕩子の主日聖体礼儀 第6調
			使徒経:コリフ前135端6;12~20/福音経:ルカ79端15;11~32 ※聖体礼儀の後、3月の聖名祭モレーベンを行います
		13:00	信徒学びの会/婦人会(雛祭り)
9日(土)、10日(日) ニコライ神父、上磯正教会出張			
9(土)	上磯	19:00	主日晚課式
10(日)	上磯	10:00	主日聖体礼儀
	函館	10:00	断肉の主日(「最後の審判」の記憶) 代式祈祷 第7調
使徒経:コリフ前140端8;8~9;2/福音経:マトフェイ106端25;31~46			
15日(金)~17日(日) ニコライ神父、札幌正教会出張(北海道ブロック聖歌研修会)			
16(土)	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
17(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	断酪の主日(アダム楽園追放の記憶) 代式祈祷 第8調
			使徒経:ロマ書112端13;11~14;4/福音経:マトフェイ17端6;14~21
			聖堂拝観奉仕の始め
18日(月)より【大斎第一週】			
18(月)	函館	10:00	朝課・時課・晩課
		17:00	晩堂大課(聖大アンドレイのカノン)
19(火)	函館	10:00	朝課・時課・晩課
		17:00	晩堂大課(聖大アンドレイのカノン)
20(水)	函館	10:00	時課・晩課・先備聖体礼儀/春の総パニヒダ(準備できる方は糖飯をご持参下さい)
	上磯	19:00	春の総パニヒダ(準備できる方は糖飯をご持参下さい)
21(木)	函館	10:00	朝課・時課・晩課
		17:00	晩堂大課(聖大アンドレイのカノン)
22(金)	函館	10:00	朝課・時課・晩課・先備聖体礼儀
		17:00	朝課
23(土)	函館	10:00	聖金ロイオアンの聖体礼儀(聖フェートル・テイロンの記憶)
		17:00	主日徹夜祷 福音経:イオアン65端20;19~31
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷



24(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	大斎第一主日聖体礼儀(正教勝利の記憶) 第1調 使徒経:エウ1329端11;24~26, 32~12;2/福音経:イア5端1;43~51
		13:00	執事会/聖歌練習
25日(月)より【大斎第二週】			
26(火)	函館	17:00	晩堂大課
27(水)	函館	10:00	時課・晩課・先備聖体礼儀
28(木)	函館	17:00	晩堂大課
29(金)	函館	10:00	時課・晩課・先備聖体礼儀
30日(土)、31日(日) イースターエッグ講習会			
30(土)	函館	13:00	イースターエッグ講習会第一日目
		17:00	主日徹夜祈 福音経:イア66端21;1~14
	上磯	19:00	主日晚課代式祈祷
31(日)	上磯	10:00	主日代式祈祷
	函館	10:00	大斎第二主日聖体礼儀(聖クコリイ・ハマの記憶) 第2調 使徒経:エウ1304端1;10~2;3/福音経:マルコ7端2;1~12
		13:00	イースターエッグ講習会第二日目

《大斎期の参拝について》

今年の復活祭は5月5日(日)です。復活祭では大斎期の祈りを体験してこそ、主ハリストスのご復活の意味を深く感ずることができます。教会報の「奉事・行事予定」を見て、参拝を心がけましょう。

◎毎週水曜日と金曜日に先備聖体礼儀が行なわれます。大斎中に少なくとも一回、先備聖体礼儀に与かりましょう。

◎聖歌隊及び誦経者は、大斎中の全てのご祈祷について「空白」ができないよう、お互いの都合を諮った上で、「当番表」を作成して下さい。

《春の総パニヒダ(3月20日)の参拝について》

今年は、春の総パニヒダが大斎第一週の水曜日に当たります。午前10時から時課・晩課・先備聖体礼儀が行われ、その後で春の総パニヒダが行われます。大斎の祈りに与る良い機会ですので、春の総パニヒダだけでなく、午前10時からの祈祷にもご参拝下さい。なお、先備聖体礼儀でご聖体を拝領する方は、普段の主日と同じように前の夜の0時から飲食をしません。痛悔機密は午前9時40分から行います。

春の総パニヒダは、およそ午前11時30分頃の開始となる予定です。